

日本記云應神天皇三十七年遣使於吳國求縫工女吳王獻工女兄媛弟媛吳織漢織四人女是織絹縫衣
 女工始專

浮織集序

中村 俊定

璽

中村俊定印

秋の隣くそ垣根河らひそそ
 弟とらぬを後を鑑つに賦
 棧北神を徳行に
 高のそをまきして紡績の車
 八摺のけ
 うあまらひと白足行歌を
 詠せる棧の
 笠をひひの自採の比さ
 りをのそは
 棧のそまきとぬあさ
 高をむらうそまきとぬあさ

中村俊定の書す。中村俊定の書す。中村俊定の書す。

高持去る如く家後につら合物何とぬるこ
後よといよ武織紋の出入り居ても付らん
かみは志申彦早の婦らみて其を居る
こそ我とてさしと武持のこも出来ぬれいよ也
その浮世の福をいふ我とて頃日我ら
唐系の下よ何らさるぬ高持きて軍法
庭に穿掛子の手つゝ我よせも也と思ひ介
たて織出てい我我と體殿川何屋にさるぬ

かたよるをいふりて我我と巻るのこもい
えりかよふは系居る高ららるるさるるぬ
思ふころハ機を断るはととらりて我
唯よのまの婦ら我らもて我ら一ひは
市人よ比さくころとハ我我と

文化十年

秋永の巻電葉飛

織紋目錄

松葉	兼	虫	獸形	雲	花
柳	唐草	遠山	三浪	時雨	鳥
霜	名處	野巖	人形	月	雲
長葉	四季	春雪	樓閣	折枝	霞
魚	梅花	露	山景	貝	

山景	福壽	夏衣	紅雲	牙	雲
風侍	船	冬衣	水	馬	雁行
松風	器財	綴	桐	千鳥	錢形
朽葉	草意	之葉	佛像	櫻	雀龜
雨雷	曙	雲水	初鏡	花形	

已上

古の草紙傳抄り集序辭目録の
題向成得るを致すは果ての茲に
鹿苑舎の宿禰僧都の心とし
世に下りせしめたるを今も出相
宿上ありて思ふ山室に在る宿
福轉の次子と被りて雷別の宿
世味と撰者よかるとは被りて

無の存の淨土の事觀を被りて
とらるゝあはれ方らふ事稿の筆
しるすはた多しとるの故ら
肩骨成明して楊子たる

傍るるの

玉村書



三ノ圖會四其長五尺五寸云々

玉村書
○人
玉村書



鹿苑會淋山撰



花枝

出合ナカヤとくも川ナカヤ系ナカヤからうの花の友
花守ナカヤもる子ナカヤ別ナカヤ良ナカヤ共ナカヤ夕ナカヤ々ナカヤ南ナカヤ子ナカヤ任ナカヤ
おろナカヤとくもあナカヤちナカヤ新ナカヤ物ナカヤをナカヤ愛ナカヤをナカヤ盛ナカヤ江ナカヤ戸ナカヤ
車ナカヤ西ナカヤ

鳥形

何ナカヤ和ナカヤとくもナカヤくナカヤるナカヤをナカヤ啼ナカヤいナカヤ親ナカヤイナカヤセナカヤ
鳥ナカヤ膚ナカヤのナカヤをナカヤおナカヤ頃ナカヤのナカヤやナカヤみナカヤうナカヤさナカヤんナカヤ且ナカヤ利ナカヤ
まナカヤまナカヤうナカヤたナカヤ最ナカヤとナカヤ持ナカヤめナカヤとナカヤ保ナカヤ子ナカヤ鳥ナカヤ京ナカヤ
字ナカヤ成ナカヤ

花鳥

炭ナカヤのナカヤまナカヤりナカヤとナカヤ新ナカヤをナカヤもナカヤりナカヤ層ナカヤりナカヤナナカヤコナカヤマナカヤ
花ナカヤ小ナカヤ鳥ナカヤゆナカヤもナカヤ花ナカヤのナカヤ子ナカヤ孫ナカヤうナカヤ那ナカヤヨナカヤラナカヤ
松ナカヤ枝ナカヤをナカヤ家ナカヤ散ナカヤるナカヤ中ナカヤ孫ナカヤ生ナカヤとナカヤ子ナカヤ親ナカヤキナカヤリナカヤラナカヤ
月ナカヤ結ナカヤ

月形

明ナカヤとくもナカヤ十ナカヤ五ナカヤ年ナカヤとナカヤのナカヤひナカヤまナカヤりナカヤ言ナカヤスナカヤハナカヤ
二ナカヤ日ナカヤ月ナカヤのナカヤおナカヤろナカヤけナカヤはナカヤ湯ナカヤらナカヤ守ナカヤ小ナカヤ室ナカヤカナカヤヒナカヤ
田ナカヤ畑ナカヤのナカヤものナカヤとナカヤもナカヤとナカヤくナカヤ月ナカヤのナカヤ月ナカヤセナカヤハナカヤ
芳ナカヤ之ナカヤ

春機内

とくもナカヤけナカヤしナカヤおナカヤのナカヤゆナカヤりナカヤ物ナカヤをナカヤまナカヤりナカヤナナカヤニナカヤハナカヤ
月ナカヤとナカヤ毛ナカヤ淋ナカヤしナカヤまナカヤハナカヤ銭ナカヤふナカヤ漸ナカヤうナカヤをナカヤ江ナカヤ戸ナカヤ
世ナカヤのナカヤゆナカヤにナカヤ松ナカヤのナカヤ木ナカヤもナカヤ秋ナカヤとナカヤ機ナカヤ内ナカヤ林ナカヤ田ナカヤ
野ナカヤ唐ナカヤ

玄藏月

時を月とて南子帰と和州 長サキ 卓池
五山や月さく出まをこを芒 エチコ 竹里
水鶴ふく出口の別や並共 チ住 斗月

空感

そ月や心くこぬ百万夜 ナレフ 素心
はくし初月夜ふりぬ昔の暮 ムサシ 歎息
世の居の動もやとと空の月 ハク 鬼河

雨後月

ひと麻尾雨月の傳くは姑とも、 唐然公
山の月大き形をけり ナレフ 子鶴
江の上の月を捨ふや村 秋田 巴陵

雲形

何ものもまへたの世 ナニハ 三津人
も雲を如かりし ナコア 悠々
萬歳をく 江戸 守静

霞形

帆造はつけ チウ 日人
名 足利 宿経
傘 江戸 謀圃

雪形

秋物となれる掃き シナシ 若人
雪の更や火の テハ 怡雲
とつ カヒ 互愛

時子形

酒造の家に暮るおの時の子 ナレフ 平角
時子 上毛 藤太
さつろろろ散て柳のしゝれが カマフ 隆井

月花形

月さすや梅乃戸口の藤風呂 ナレフ 谷雄
山吹のあしハ月のうつろり ニハ 梅老
大空の月子散つゝ櫻の年 ニナフ 甚雨

枝打紋

紫野の立形をのふき をハ 子影
毒の持子かふふ月を忘る ニハル 杏人
紫平のまねしきをぬき ナレフ 風流

貝尽

口吹の笛子とんぼを小蛇 ムサシ 石原久
田子とんぼをかかへる カ 松島
吹く目とてふこや貝は カ 路智雪

歎瓶

知の瓶や瓶の影のすゝ カ 琴松
まの藤子と後を カ 作者知
海の新とふ カ 瓶やニッ猫、 可磨

立波

海にさし浮世の舟よ浪のおと ナレフ 造人
船中浪つる カ 如光
あふ浪小瓶と ムサシ 花境

人形

人うけのたさあふりた柳カマフ とに 鳥頂
引鴨子細少人の競う都 カマフ 陌雲
神の梅に折鐵銃う角力取 ムサシ 東子

樓閣

階や嵐まひ移ふ年一の巨 下毛 丘雲
塔のある寺のけしきやその峰 江戸 松丈
笠山やし分入ちの白のおも 上毛 舌く

小島

河やあまふれと五尺ハある泉 ナニハ 万和
美林や丘の小泉の鏡寸とき オハリ 一航
竹立う好ふ霞の小泉う系 テハ 晴屋

生糸

走ーこの徳よあさるの袖よあさ ナニハ 井眉
夜ハ明ぬとふとあまの月 カマフ 只路
孝の巻根なうう月とこを絶 カマフ 巻梁

遠山

薫りもほよとろーたや富士山 ムサシ 五後
麻ももかこへよえて秋の山 カマフ 柳葉
常中あふとくすく山のうけ 吉田 木芽

春野

ワカミの春野 京 茶乳
春ゆも伽の遠わと旅 ムサシ 白土
星の子の摘う果 オハリ 蟻双

夏野

ゆらゆらを道もつぎなきも
麻畑の終りけきし夏のはら
夏の野はぬくとも夢も成り
路白

秋野

かすみの東て暮すや後す
芒より冬の深き中野
めくを帯し野の境
不明

冬雪

酒吞子録る礼し枯雪
七村の牛の集るうれゆ
下さぬ乃掃もさきぬ
雪川
又山

春残雪

山をぬきし木の芳う雪
流るや空うう遠入る
木ぬにさきもほふり
一疎

平家政

疾くくちし是をよきて野の
ふをぬきしわけて深し
つゆのありや酒を
茶峰

菊形

十月やいふ日も咲
杖束も珠散り深き
秋の愛のちをこ
五松

辰中藏

嘉穀一子限つゝ家や草もみナカニ 南岳
秋礼チクコ（家掃）帚ふりチクコ 四軒
蘇せめて交相且利 雄尾

名所藏

口せくく水から着てあぶナニハ 山 星橋
煙ももまの影回のこまのま江戸 春草
りよのまも啼を街の次カヒ 浦 宇川

四季藏

春畑の入り日赤くむナコヤ 四くナコヤ 路方
夏大坂 雨ふるまナニフ 你生ナニフ 雉鳴
笹竹の小鳥をいをナニフ 卵ナニフ 月 英里

花氣

あ〜〜〜つをテハ 淋しテハ やテハ めテハ のテハ 毛テハ 瑞光
夕テハ けテハ のテハ 梅テハ のテハ 香テハ ひテハ らテハ 梅テハ ひテハ ぎテハ
梅テハ えテハ しテハ しテハ 風テハ 影テハ しくテハ 且テハ 夕テハ 外テハ 石海

紅葉藏

公イセ 負イセ ばイセ 松イセ 葉イセ 嵐イセ 乃イセ 落イセ せイセ ばイセ 椿堂
夜ナニフ 葉ナニフ 捨ナニフ 子ナニフ にナニフ なナニフ りナニフ ぬナニフ りナニフ 葉ナニフ 葱ナニフ 葉ナニフ
飯ナニフ のナニフ 脊ナニフ 不ナニフ 善ナニフ 哉ナニフ 松ナニフ 葉ナニフ のナニフ 掛ナニフ 行ナニフ 京 岱堂

柳藏

伊勢路の夕下サ も下サ ん下サ 由下サ り下サ 柳下サ 外下サ 素迪
ひ下サ と下サ 村下サ の下サ 音下サ 々下サ 歌下サ よ下サ む下サ 希下サ 外下サ 素冠
木の下サ 浮下サ り下サ う下サ の下サ い下サ 様下サ 子下サ する下サ 柳下サ 外下サ 素冠

霜降

雲月のしほもゆる海へん葱汁オカイ
梅子如塩もまきれんと秋の下サ 至長
有明のしほし平雲の陰もナカマ 麻生

夜景

戸のれも是ハ梅さく夜のはき仙タイ 燈刺
露らるる梅よかふさ夜の暖テハ 如雪
梅如露の深くと詠ら秋も近江 申富

冬

卯のしほの影半緒ハ照さアキ 篤光
後雪よと存よしとや秋且利 和井
すしとさの晴之とと小射上サ 省我

山家

五月から夜ふ入春の山家五江 于尚
柳とく披せとらぬ山家アハ 松長
物もまおと山家の礼志ナカマ 少世

風神

春あどし水也主と山家ねあ 布席
川形也吹浦は浪の青ゆテハ 世流
赤松よまき目もや秋の風エナ 更常

松風

松風の吹来ハ春の浪イセ 霞明
松うせを肩よけとや情カヒ 少子
浪哉し水松風テハ 春の海 自爾

朽葉織

只ちかくも千六海も長葉外カハチ 来紀
里の子や木の葉あつたて神送ミチノ 幽喃
加茂川乃曉流すあま外ムサシ 有圭

雨雷形

縮つる花あつる雨降志賀の松道江 拍翠
多雨ふくやあまの通り雨サカイ 三月
春はあま思ひけり仙タイ 小神竹 文卿

縮書形

子部ヒタナの歌日梅書哉夜敷 李尺
梅つる花あつた雨あつる江戸 麦舟
指つるや雪の中より梅 赤ムサシ 席礼

船形

おろ舟乃若洲せりよ木下雪十二ハ 梅價
二之本船くくえんやけい一の玉ムサシ 碎糸
梅月家裁の舟の通りより 子初

畚我形

所ぬきとまろ休しせよ梅り候 雨亭
机もあまあつた秋は夜と本ぬを江 文聽
梅り香や涼のぬけぬ梅り十住 菜織め

草花紋

候目くらそま木とへんぬ梅り十二ハ 畚
五月あやあつたうあまの香江戸 一阿
織那も活況あやめと下サ 太節

曙織

日比赤糸織や人子別原多カタ、文彦
曉く糸寸糸のしらりの枯木外ムサシ 嘉内
籠子の音に引きく下も糸ナコ 杜堂ナカマ

菱衣

野へむけえとれも故を了る在而外ヒタ 依史
給着る程室の松を滞りたり下サ 孝峰
時を味くする付ま起世界外トク 十楽

冬衣

一字名の糸作運する紙衣外アイツ 如發
おもむきの世々通る紙衣好古何 知翁
紙衣着く安糸より西の親仁外上サ 櫻里

総織

妙や神の糸子又撰ん籠り拍き仙タイ 三都良
ハ朝や袴外又縮む一ろムサシ 梅之
新牛や履の小袖も数つと心カワテ 琴例

言葉綾

ちらくくと唯の木叶も林を京 方六
く色くくと年の布立在々外ムサシ 明良
わやくくと柳もて新の糸湯外カマフ 北林

花水織

散る来る管水の水よむめある京 美丸
くく水の濁りそめくくさくから引イセ 若者
水の流山吹をくくくくくく兵庫 桐栖

紅毒織

紅梅や笈の月より小糸直 カマフ 八二
石妻の透りてうらふ旭の出 ナシフ 桂窓
紅梅のまよと氣よとふ シナノ 可厚

水紋

冬木立をよほす水のひより外 イセ 丘言
六月のまよや屋のひより外 道江 可盈
かすみて水子わたりり ナコヤ 風聲

桐飛

桐相のあそび 江戸 護物
叔人の欠伸につくや桐の花 越中 乾丈
桐苗のまよき 下丹 葦軒 廣陵

佛像

羅漢のわらけ テハ 兔年
大仏の後ハ度 十住 菜山
具六のあそび 仙臺 具

物種織

鐘の音子カ入 テハ 楓二
畑毎にゆて 京 言露
入射別を アキ 去桂

牛之形

牛川新牛に小春のあそ ヒメナ 渾堂
あそび 京 水吏
あそび 京 路一

馬之飛

黒うす干光のつ膚一 爲丹 ニナ 氏日
素苞の塩とれそ也 采子多 豆利 一 眺
多々押 也 龍ふり 上 牧の弱 ニカシ 東落

傷形

栖かへる音のしとらう 啼傷 ニナ 丹日
世かゝるもの 焚火 燃是て 明おる ハナシ 如及
貴道子日ハ 焚火 昏ぬ 干とら 外 ナニナ 楚山

様控

魚川こく 喉小ひりなき 様外 ナコヤ 岳路
残むうー 脊とわくく 様外 ナニナ 朱彦
魚川 月よの とも 沙さぬ さくく 系 ヒコ 對外

萑形

すゝめりや 巻いせく 秋おのくへ ナニナ 寛泥
若木 芥のいろも 深れ 秋 萑 能谷 也 好
甥め 秋の 萑の 小口は 上毛 踏白

雲鳥

さう 花の ち 葉の 枝 也 云 以 命 ヲハリ 木天
志下 雲の 濃る せ 明を 采子 多 仙タイ きよ女
流りの 也 龍 波 入 さく 雲の 脚 カマフ 淋山

行

雛等の 取入 時 干 一 片の 影 ナコヤ 梅間
尻 夢 干 抄 あり 片 北 陰 系 下ナ 北尼
乃も 藤と 官 中 街 若 干 垣の 外 口白 志彦

銭形

酒の残さるのちりちり帰る戸素玩
後たたくて杖のつもとを採るし
うー子系あつは後さる春日戸
下才 如柳

霍佳亀

さみしきよまけにいぬるう小田の痔
幕千はや竹虎たき着う系
梅の香やおのて、殊々龜の
古 巢松

ささる縁持の救多く品切の何種えんれ
ふんふ子の深人強さ存のも厚くと拵て

せつう 何の事とさういふ種なる

おとひよる本信や魚子と鈴の杖
今朝ハな何とてんて拵る留ぬ
朝の月や卯の虫咲く鶯の中
後水うらと朝もあつやうの春
さいくな梅の本下や何の家
薩仏の日も花彼の鈴日う船
在さく入るくと男我なりやうの

エナノ 葛之
カヒ 漫々
千住 之巴
ナニハ 松隣
京 茂良
△ナシ 五條
江戸 くら亮

神崎のわらう竹由る月夜外十二 鼻徳

姨捨のくまゆりう清き糸二十 一糸

村の海を志向の算所う月上 石順

休の戸いひつもあま麻子明あしヒタチ 祇明

夕良をふきこいし中州の岩、チハリ 又曲

大竹を植ゑる客も中角屋後チハリ 月底

猿養う門もすれふあ菜より仙タイ 二礎

も千取もそれと春ふり何かも、京 南山

常の影とくくせも卯月外京 雪飛

物も常の麻ぬぬと柳し子奴チク 林丈

さらしと木尻いあれも明をこりモナキ 祥永

ほやうむら羅わとこし子出る扱をチク 百非

耳あゝとねと枯か人麻の壽江戸 完来

春の日とほ子負ぬつり乃いさエチコ 石海

春の思お柳の書とき砂の上テハ 持呂

玉川を笑はせと新茂りう那五江 亭め

根のほや—子き海る雪あ外京 六響

旅さけの吸柳出すもて梅の雪千住 亜後

春の目乃烟よてある徳手外ナニ 笠多

世の中ハいつぬ姿の野草外カヒ 樵村

山明も朝日ふりの垣根うふ千住 善喜

扇折る膝に旭の昇り古河 田舟

月志も〜やめて青ま柳うふテハ 旭安

柳拵清水もちりり世ハ捨チウ 雨考

春うけハ一丸さく椿う華、トク 与入

柳中事あ〜〜落るう蝶の素五陵

雪とてふ〜んか〜る雨牛心

巾の戸の主ぬりせよ雲の玉上サ 白川

す〜し〜とふふせ〜洗ひ米全江 櫻水

響う子とま〜降らぬと月露キハリ 沙路

ハ影や門をらぬさく小山ぬカマフ 山朝

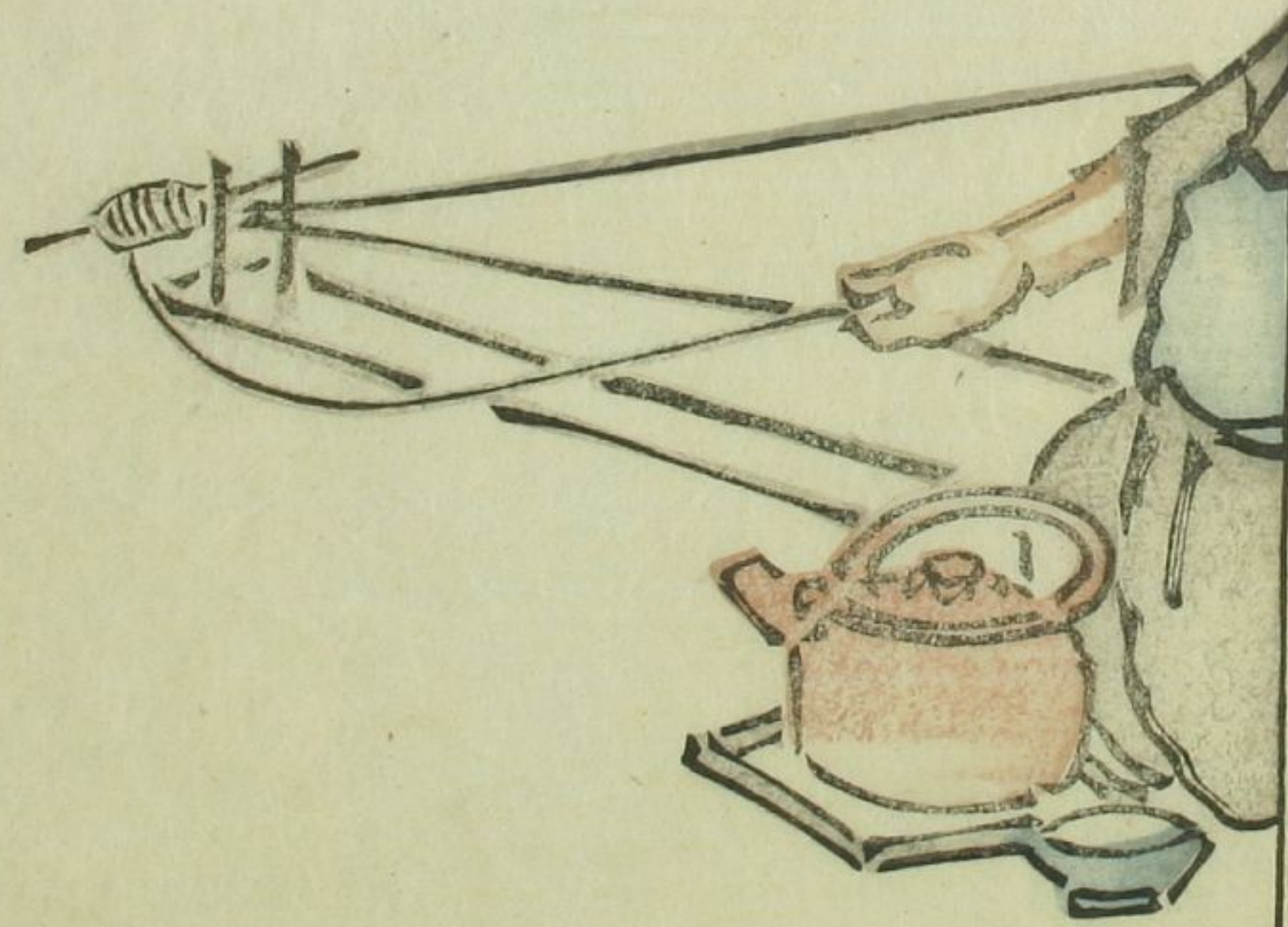
新紫す〜杖子振り葉家外葉路

光明精舎を立出る宵

畠別

椎の木や秋風ぬくも知るぬ影 林山

随
斎
办





文化十二年亥年

八月吉辰

披瀝

蕭生多見此

少本原

江戶比方為多石

